

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	蒲郡地区地域水産業再生委員会
代表者名	山本米司

再生委員会の構成員	蒲郡漁業協同組合（形原支所、西浦支所、竹島支所）、蒲郡市、愛知県東三河農林水産事務所（水産課）
オブザーバー	愛知県（農林水産部水産課）、愛知県漁業協同組合連合会

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	愛知県蒲郡市（蒲郡漁協地区） 平成27年11月現在（蒲郡市調べ）								
	漁業の種類								
	支所名	沖合底びき網	小型底びき網	船びき網	小型定置網	はえ縄	採貝	その他漁業	総数
	形原	2	8			1		5	16
	西浦	2	20	1	2		5	8	38
竹島						7		7	

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

蒲郡市の水産業は、小型機船底びき網漁業を中心に沖合底びき網漁業、船びき網漁業、刺網漁業、採貝漁業など様々な漁業が営まれており、メヒカリ（アオメエソ）、ニギス、アカザエビなどの深海魚やイワシ類、カレイ類、タイ類、ガザミ、タコ類、アサリなどを中心に、様々な水産物が水揚げされる地域である。

漁獲量は平成27年11月現在で約2,506t、漁獲金額は約1,215,293千円で、小型機船底びき網漁業と沖合底びき網漁業で市内の8割を占める。沖合底びき網漁業は、現在4隻が許可されており、蒲郡市の蒲郡漁業協同組合形原支所に2隻、同西浦支所に2隻が所属している。しかし、沖合底びき網漁業は平成元年頃には13隻が操業してお

り、魚価の低迷や燃料及び資材の高騰化、後継者不足などの影響から廃業が相次ぎ、現在の4隻が残った。小型底びき網漁業は、平成元年に86隻が操業していたが、同じく上記のような理由で現在は28隻となっている。

また、市内ではアサリの採貝が盛んに行われており、潮干狩りに多くの観光客が訪れる。

蒲郡市内には、蒲郡漁協形原支所と西浦支所が製氷・貯氷施設を保有しており、形原支所は製氷能力約10t/日・貯氷能力約20t、西浦支所は製氷能力約10t/日・貯氷能力約50tである。しかし、どちらも昭和50年代から平成初期に整備された施設であるため、生産能力の低下や根氷の発生による貯氷能力の低下を招いている。

そのため、故障による修繕時や気温が高い時期については、多くの氷を必要とする沖合底びき網漁船をはじめ、小型機船底びき網漁業、機船船びき網漁船、小型定置網漁船の氷の需要には支所間で氷を融通しあって対応しているが、休漁や作業時間の変更を余儀なくさせられる場合がある。

また、蒲郡漁協形原支所と西浦支所が保有している製氷・貯氷施設に使用されている冷媒はフロン（R22）であり、フロンは平成32年度までに生産と消費が全廃の予定となっている。平成32年度以降に故障が発生した場合に、修繕不能になると地区の漁業者に対して安定的に氷を供給することができなくなり、その影響は漁業の存続にも関わる極めて深刻な問題である。

## (2) その他の関連する現状等

蒲郡地区の漁業協同組合は、西浦、形原、竹島、三谷の4組合であったが、組合員数の減少や漁業協同組合の経営基盤改善のため、平成18年に西浦、形原、竹島が蒲郡漁業協同組合として合併したことにより、現在は蒲郡、三谷の2組合となっている。

## 3 活性化の取組方針

### (1) 基本方針

#### 【I 生産量を増やす取組】

小型機船底びき網や機船船びき網については、資源管理計画に基づく定期休漁や操業期間制限を着実に実行し、マアナゴ、タイ類、カレイ類、シャコ、エビ類、イカ類、イワシ類、イカナゴ等の資源の維持、増大を図る。また、クルマエビ、ガザミ、ナマコの種苗放流を行うとともに、アマモ場造成を実施し、カレイ類、タイ類、スズキ、イカ類、ガザミ等の資源の増大を図る。これらの取り組みにより、小型機船底びき網や機船船びき網の漁獲量の増加を目指す。

アサリについては、耕うん等による漁場改良、豊川河口で発生する稚貝の移植放流、食害生物の駆除等を行い、資源の維持増大を図り、漁獲量の増加、観光潮干狩の集客力の向上を図る。

#### 【Ⅱ 付加価値向上を図る取組】

沖合底びき網については、現在実施中の「もうかる漁業創設支援事業」での殺菌海水で生成したシルクアイスや冷却海水を用いた、メヒカリ、ニギス、アカムツ、アカザエビ等の漁獲物の高鮮度化による付加価値向上等の実証の成果をもとに実証船以外の漁船へその取組を波及させることを目指す。

#### 【Ⅲ 売り先・売り方を工夫する取組】

沖合底びき網の漁獲物である深海魚に関して、商標登録済みの「蒲郡メヒカリ」の名称でブランド化に向けたPR活動やアカザエビの周年出荷による「蒲郡の高級料理アカザエビ」の定着に向けた取組を進め、また、沖合底びき網だけでなく小型機船底びき網や機船船びき網、その他漁業のニギス、シラス、イカ・タコ類、アサリ等の漁獲物を含め、地産地消による地元飲食店、学校給食への普及活動を行い、魚価向上を目指す。

アサリの食害生物であり未利用資源でもあるツメタガイについて、水産試験場、水産高校、食品会社等と協力して、料理、加工品などでの活用方法を検討・開発し、それをイベントで提供することで食用としての認知度を向上させる。

#### 【Ⅳ 省燃油活動・省エネ機器導入】

競争力強化機器等導入緊急対策事業による省エネ機器の導入や、市の補助事業である船底塗装対策事業の活用により、燃油コストの削減に取り組む。

#### 【Ⅴ 製氷・貯氷施設の整備に関する取組】

新たに製氷・貯氷施設の整備を行うことにより、製氷能力及び貯氷能力が向上し、各漁協及び各支所の漁業者の氷不足解消による漁獲物の鮮度保持・向上を図る。

また、西浦支所が管理している製氷・貯氷施設においては、従来の人による手動管理から、コイン式またはカード式による自動販売や機械による貯氷・製氷の自動管理に切り替える。無人化により、人件費や電気料等の削減が図られる。

## (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

蒲郡漁協西浦支所小型機船底びき網（渥美外海板びき網及び改良備前網）漁業資源管理計画（休漁）

蒲郡漁協形原支所小型機船底びき網（渥美外海板びき網及び改良備前網）漁業資源管理計画（休漁）

蒲郡漁協西浦支所小型機船底びき網（えびけた網）漁業資源管理計画（定期休

漁)

蒲郡漁協形原支所小型機船底びき網（えびけた網）漁業資源管理計画（定期休漁）

伊勢湾における小型機船底びき網（まめ板網）漁業（定期休漁）

愛知県ぱっち網漁業者組合イカナゴ資源管理計画（操業期間制限）

愛知県ぱっち網漁業者組合イワシ類資源管理計画（定期休漁）

太平洋広域漁業調整委員会指示第15号

（イカナゴ伊勢・三河湾系群の資源管理に係る指示）

愛知海区漁業調整委員会告示第6号（あなごかご漁業に関する告示）

愛知県漁業調整規則第38条

（漁具の制限：機船船びき網漁業、小型機船底びき網漁業の目合い制限等）

愛知県漁業調整規則第44条

（漁船の総トン数及び馬力数の制限：機船船びき網漁船の総トン数制限、小型機船底びき網漁船の推進機関の馬力制限）

(3) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

(取組内容については、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえて必要により見直すこととする。)

1年目 (平成29年度)

漁業収入向上のための取組	<p><b>【Ⅰ 生産量を増やす取組】</b></p> <p>①小型機船底びき網、機船船びき網漁業者は、資源管理計画に基づき、定期休漁や操業期間制限を実施し、マアナゴ、タイ類、カレイ類、シャコ、エビ類、イカ類、イワシ類、イカナゴ等の資源の維持、増大に努める。</p> <p>②漁協は、愛知県、蒲州市と協力して、三河湾や地先漁場において、クルマエビ、ガザミ、ナマコの種苗放流を行い、資源の維持増大を図る。</p> <p>③漁協、蒲州市等で構成する蒲州市漁場環境保全協議会 (以下、「協議会」という。) は、魚介類の産卵場、成育場となるアマモ場について、ゾステラマットを活用した造成を行い、カレイ類、タイ類、スズキ、イカ類、ガザミ等の水産資源の増大や漁場環境の改善を図る。</p> <p>④協議会は、アサリの食害生物であるツメタガイ等の駆除活動やカモの食害防除対策を行い、資源の保護を図る。</p> <p>⑤漁協は、アサリ漁場の耕うん等を行い、稚貝の着底促進、生育環境の改善を図り、資源の増大、漁獲量の安定を目指す。</p> <p>⑥漁協は、豊川河口で発生するアサリ稚貝を採捕し、地区内の漁場に放流することにより、資源の増大を目指す。</p> <p><b>【Ⅱ 付加価値向上を図る取組】</b></p> <p>①沖合底びき網漁船で実施している「もうかる漁業創設支援事業」(2、3年目)の海水殺菌装置、シルクアイス装置を導入した高鮮度漁獲物(メヒカリ、ニギス、アカムツ、アカザエビ等)の安定供給に関する実証事業を引き続き取り組む。</p> <p>②実証事業を実施している沖合底びき網漁業者は、アカザエビについて、冷却海水を使用することにより海水温が高い時期でも高鮮度を維持することで周年供給化を図り、地元高級料理店とタイアップすることで需要拡大、魚価向上を目指す。</p> <p>③漁協は、県と協力して定期的にあサリの貝毒検査を実施し、安全安心なアサリを安定供給することで魚価の維持、向上を図る。</p> <p><b>【Ⅲ 売り先・売り方を工夫する取組】</b></p>
--------------	--

	<p>①漁協は、「蒲郡メヒカリ」のブランド化に向け、市内で行われている農林水産まつりや漁協主催の青空市等のイベントにおいて、蒲郡メヒカリの唐揚げを販売し、周知活動を行う。</p> <p>②蒲郡市は、市内の学校給食において、地産地消活動の一環としてメヒカリ、ニギス等の深海魚を使った献立を提供し、需要拡大を図る。</p> <p>③漁協女性部は、年に2回地元の公民館や水産物販売施設などで料理教室を開催し、沖合底びき網の深海魚始め地元で水揚げされた漁獲物を活用した料理を提供し、地元産魚介類の魚食普及を図る。</p> <p>・これらの取組により、基準年の漁業収入に対し0.7%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>【IV 省燃油活動・省エネ機器導入】</b></p> <p>①漁業者は、船底塗装対策事業により船底清掃、船底塗装等を定期的に行い、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p> <p>②漁業者は、漁業近代化資金を活用し、燃費の悪い漁船から順次、燃油削減効果の高い省エネ機器を導入し、燃油コストの削減を図る。</p> <p>③漁業者は、減速運転による燃油使用量の削減やLED電灯の導入、漁業機器の定期的な整備による消費電力の削減など、自主的な省エネ対策を行う。</p> <p>④漁業者は、競争力強化機器等導入緊急対策事業を活用し、老朽化したエンジンから順次機関換装を行うことで、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p> <p>・これらの取組により、基準年に対し0.2%のコスト削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もうかる漁業創設支援事業（Ⅱ①②）</li> <li>・競争力強化機器等導入緊急対策事業（Ⅳ④）</li> <li>・漁業近代化資金（Ⅳ②）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（Ⅰ③④）</li> <li>・水産まつり委託料（蒲郡市）（Ⅲ①）</li> <li>・蒲郡メヒカリブランド化推進事業委託料（蒲郡市）（Ⅲ①）</li> <li>・船底塗装推進事業補助金（蒲郡市）（Ⅳ①）</li> <li>・水産物地産地消事業委託料（蒲郡市）（Ⅲ③）</li> </ul>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>【Ⅰ 生産量を増やす取組】</b></p> <p>①小型機船底びき網、機船船びき網漁業者は、資源管理計画に基づき、引き続き定期休漁や操業期間制限を実施し、マアナゴ、タイ類、カレイ類、シャコ、エビ類、イカ類、イワシ類、イカナゴ等の資源の維持、増大に努める。また、計画期間が終了する西浦地区の小型機船底びき網のうち渥美外海板びき網及び改良備前網については、資源管理協議会で行う評価・検証の結果をもとに、必要に応じて取組内容を見直し、新たな計画に基づく資源管理を実施する。</p> <p>②漁協は、愛知県、蒲郡市と協力して、三河湾や地先漁場において、引き続きクルマエビ、ガザミ、ナマコの種苗放流を行い、資源の維持増大を図る。</p> <p>③協議会は、アマモ場について既造成場所を保護・維持するとともに、ゾステラマットを活用した造成場所を増やし、更にカレイ類、タイ類、スズキ、イカ類、ガザミ等の水産資源の増大や漁場環境の改善を図る。</p> <p>④協議会は、引き続きアサリの食害生物であるツメタガイ等の駆除活動やカモの食害防除対策を行い、資源の保護を図る。</p> <p>⑤漁協は、引き続きアサリ漁場の耕うん等を行い、稚貝の着底促進、生育環境の改善を図り、資源の増大、漁獲量の安定を目指す。なお、耕うんは、前年度と異なる時期、場所においても実施し、水産試験場等の協力を得ながら稚貝の着底状況等を調査する。</p> <p>⑥漁協は、引き続き豊川河口で発生するアサリ稚貝を採捕し、地区内の漁場に放流することにより、資源の増大を目指す。</p> <p><b>【Ⅱ 付加価値向上を図る取組】</b></p> <p>①沖合底びき網漁船で実施している「もうかる漁業創設支援事業」（3、4年目）の海水殺菌装置、シルクアイス装置を導入した高鮮度漁獲物（メヒカリ、ニギス、アカムツ、アカザエビ等）の安定供給に関する実証事業を引き続き取り組む。また、実証事業の成果に関する報告会を開催し、実証船以外の漁船への波及を図る。</p> <p>②実証事業を実施している沖合底びき網漁業者は、アカザエビについて、冷却海水を使用することにより海水温が高い時期でも高鮮度を維持することで周年かつ安定した供給を図り、引き続き地</p>
---------------------	---

	<p>元高級料理店とタイアップすることでさらなる需要拡大、魚価向上を目指す。</p> <p>③漁協は、引き続き県と協力して定期的にあサリの貝毒検査を実施し、安全安心なアサリを安定供給することで魚価の維持、向上を図る。</p> <p><b>【Ⅲ 売り先・売り方を工夫する取組】</b></p> <p>①漁協は、「蒲郡メヒカリ」のブランド化に向け、蒲郡メヒカリの唐揚げを市内だけでなく市外のイベントなどでも販売し、周知活動を広めていく。</p> <p>②漁協は、料理教室や学校給食においてメヒカリやニギスなど蒲郡でメジャーな深海魚だけでなく、その他の認知度の低い深海魚や未利用魚などを使って深海魚全体の魚食普及を図る。</p> <p>③漁協は、地元料理店の協力を得ながら、アカザエビについて、地元高級料理店での販売実績を元に、より多くの料理店への販路を拡大する。</p> <p>④漁協女性部は、年に2回地元の公民館や水産物販売施設などで料理教室を開催し、沖合底びき網の深海魚始め地元で水揚げされた漁獲物を活用した料理を提供し、地元産魚介類の魚食普及を図る。</p> <p><b>【Ⅴ 製氷・貯氷施設の整備に関する取組】</b></p> <p>漁協は、製氷・貯氷施設の整備を行うために、設置費用や場所、漁協の現状に対する適正な施設の規模算出など、施設整備に向けた計画策定をすすめる。また、漁業者と漁協だけでなく、漁港管理者をはじめ、蒲郡市、愛知県東三河農林水産事務所、愛知県など、漁業関係者と協議を行っていき、適切な製氷・貯氷施設の整備を行うことができるよう、計画策定をすすめていく。</p> <p>・これらの取組により、基準年の漁業収入に対し0.7%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>【Ⅳ 省燃油活動・省エネ機器導入】</b></p> <p>①漁業者は、引き続き船底塗装対策事業により船底清掃、船底塗装等を定期的に行い、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p> <p>②漁業者は、引き続き漁業近代化資金を活用し、燃費の悪い漁船から順次、燃油削減効果の高い省エネ機器を導入し、燃油コストの削減を図る。</p>



	<p>③漁業者は、引き続き減速運転による燃油使用量の削減やLED電灯の導入、漁業機器の定期的な整備による消費電力の削減など、自主的な省エネ対策を行う。</p> <p>④漁業者は、引き続き競争力強化機器等導入緊急対策事業を活用し、老朽化したエンジンから順次機関換装を行うことで、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p> <p>・これらの取組により、基準年に対し0.2%のコスト削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もうかる漁業創設支援事業（Ⅱ①②）</li> <li>・競争力強化機器等導入緊急対策事業（Ⅳ④）</li> <li>・漁業近代化資金（Ⅳ②）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（Ⅰ③④）</li> <li>・水産まつり委託料（蒲郡市）（Ⅲ①）</li> <li>・蒲郡メヒカリブランド化推進事業委託料（蒲郡市）（Ⅲ①）</li> <li>・船底塗装推進事業補助金（蒲郡市）（Ⅳ①）</li> <li>・水産物地産地消事業委託料（蒲郡市）（Ⅲ③）</li> </ul>

3年目（平成31年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>【Ⅰ 生産量を増やす取組】</b></p> <p>①小型機船底びき網、機船船びき網漁業者は、資源管理計画に基づき、引き続き定期休漁や操業期間制限を実施し、マアナゴ、タイ類、カレイ類、シャコ、エビ類、イカ類、イワシ類、イカナゴ等の資源の維持、増大に努める。</p> <p>②漁協は、愛知県、蒲郡市と協力して、三河湾や地先漁場において、引き続きクルマエビ、ガザミ、ナマコの種苗放流を行い、資源の維持増大を図る。</p> <p>③協議会は、アマモ場について引き続き既造成場所を保護・維持するとともに、ゾステラマットを活用した造成場所を増やし、更にカレイ類、タイ類、スズキ、イカ類、ガザミ等の水産資源の増大や漁場環境の改善を図る。また、ゾステラマット以外の造成手法についても検討する。</p> <p>④協議会は、引き続きアサリの食害生物であるツメタガイ等の駆除活動やカモの食害防除対策を行い、資源の保護を図る。</p> <p>⑤漁協は、引き続きアサリ漁場の耕うん等を行い、稚貝の着底促進、生育環境の改善を図り、資源の増大、漁獲量の安定を目指す。なお、耕うんは、前年度と異なる時期、場所においても実施し、水産試験場等の協力を得ながら稚貝の着底状況等を調査する。</p> <p>⑥漁協は、引き続き豊川河口で発生するアサリ稚貝を採捕し、地区内の漁場に放流することにより、資源の増大を目指す。</p> <p><b>【Ⅱ 付加価値向上を図る取組】</b></p> <p>①沖合底びき網漁船で実施している「もうかる漁業創設支援事業」（4、5年目）の海水殺菌装置、シルクアイス装置を導入した高鮮度漁獲物（メヒカリ、ニギス、アカムツ、アカザエビ等）の安定供給に関する実証事業を引き続き取り組む。また、実証事業の成果に関する報告会を開催し、実証船以外の漁船への波及を図る。</p> <p>②実証事業を実施している沖合底びき網漁業者は、海水冷却装置を活用した活アカザエビの周年供給化を図り、引き続き地元高級料理店とタイアップすることで魚価のさらなる向上を目指す。</p> <p>③漁協は、引き続き県と協力して定期的にあサリの貝毒検査を実施し、安全安心なアサリを安定供給することで魚価の維持、向上を図る。</p>
---------------------	---

	<p><b>【Ⅲ 売り先・売り方を工夫する取組】</b></p> <p>①漁協は、「蒲郡メヒカリ」のブランド化に向け、引き続き蒲郡メヒカリの唐揚げを市内だけでなく市外のイベントなどでも販売するとともに、消費者にアンケートなどを行うことで、蒲郡メヒカリの認知度を調査し、地域団体商標登録申請への準備を進める。</p> <p>②漁協は、深海魚について、料理教室や学校給食での活用実績を元に、水産加工業者や仲買人、調理師などを交えた勉強会等を開催し、新しい深海魚料理を考案する。</p> <p>③漁協は、引き続き地元料理店と協力し、アカザエビについて、販売される現行のメニューに加え、料理研究家と新たな看板メニューを考案することで更なる人気向上を図る。</p> <p>④漁協女性部は、年に2回地元の公民館や水産物販売施設などで料理教室を開催し、沖合底びき網の深海魚始め地元で水揚げされた漁獲物を活用した料理を提供し、地元魚介類の魚食普及を図る。</p> <p>⑤漁協は、アサリの食害生物であり未利用資源でもあるツメタガイについて、水産試験場、水産高校、食品会社等と協力して料理、加工品などで新しい活用方法を検討する。</p> <p><b>【Ⅴ 製氷・貯氷施設の整備に関する取組】</b></p> <p>漁協は、製氷・貯氷施設の設計を行うとともに、平成32年度以降の製氷・貯氷施設の整備が円滑に進むよう、漁業者と漁協だけでなく、漁港管理者をはじめ、蒲郡市、愛知県東三河農林水産事務所、愛知県など、と必要な調整を行う。</p> <p>・これらの取組により、基準年の漁業収入に対し0.7%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>【Ⅳ 省燃油活動・省エネ機器導入】</b></p> <p>①漁業者は、引き続き船底塗装対策事業により船底清掃、船底塗装等を定期的に行い、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p> <p>②漁業者は、引き続き漁業近代化資金を活用し、燃費の悪い漁船から順次、燃油削減効果の高い省エネ機器を導入し、燃油コストの削減を図る。</p> <p>③漁業者は、引き続き減速運転による燃油使用量の削減やLED電灯の導入、漁業機器の定期的な整備による消費電力の削減節電など、自主的な省エネ対策を行う。</p>

	<p>④漁業者は、引き続き競争力強化機器等導入緊急対策事業を活用し、老朽化したエンジンから順次機関換装を行うことで、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p> <p>・これらの取組により、基準年に対し0.2%のコスト削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もうかる漁業創設支援事業（Ⅱ①②）</li> <li>・競争力強化機器等導入緊急対策事業（Ⅳ④）</li> <li>・漁業近代化資金（Ⅳ②）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（Ⅰ③④）</li> <li>・水産まつり委託料（蒲郡市）（Ⅲ①）</li> <li>・蒲郡メヒカリブランド化推進事業委託料（蒲郡市）（Ⅲ①）</li> <li>・船底塗装推進事業補助金（蒲郡市）（Ⅳ①）</li> <li>・水産物地産地消事業委託料（蒲郡市）（Ⅲ③）</li> <li>・水産業強化支援事業（Ⅴ）</li> </ul>

4年目（平成32年度）

漁業収入向上のための取組	<p><b>【Ⅰ 生産量を増やす取組】</b></p> <p>①小型機船底びき網、機船船びき網漁業者は、資源管理計画に基づき、引き続き定期休漁や操業期間制限を実施し、マアナゴ、タイ類、カレイ類、シャコ、エビ類、イカ類、イワシ類、イカナゴ等の資源の維持、増大に努める。</p> <p>②漁協は、愛知県、蒲郡市と協力して、三河湾や地先漁場において、引き続きクルマエビ、ガザミ、ナマコの種苗放流を行い、資源の維持増大を図る。</p> <p>③協議会は、アマモ場について引き続き既造成場所を保護・維持するとともに、ゾステラマット及び新たな手法を活用して造成場所を増やし、更にカレイ類、タイ類、スズキ、イカ類、ガザミ等の水産資源の増大や漁場環境の改善を図る。</p> <p>④協議会は、引き続きアサリの食害生物であるツメタガイ等の駆除活動やカモの食害防除対策を行い、資源の保護を図る。</p> <p>⑤漁協は、アサリ漁場の耕うん等を、昨年度までの調査の結果を踏まえて、効果的な実施時期、場所で行い、より一層の稚貝の着底促進、生育環境の改善を図り、資源の増大、漁獲量の安定を目指す。</p> <p>⑥漁協は、引き続き豊川河口で発生するアサリ稚貝を採捕し、地区内の漁場に放流することにより、資源の増大を目指す。</p> <p><b>【Ⅱ 付加価値向上を図る取組】</b></p> <p>①沖合底びき網漁船で実施している「もうかる漁業創設支援事業」（5年目）の海水殺菌装置、シルクアイス装置を導入した高鮮度漁獲物（メヒカリ、ニギス、アカムツ、アカザエビ等）の安定供給に関する実証事業の成果を取りまとめる。また、実証船以外の漁船への導入について検討する。</p> <p>②実証事業を実施している沖合底びき網漁業者は、海水冷却装置を活用した活アカザエビの周年かつ安定した供給を図り、引き続き地元高級料理店とタイアップすることで魚価の高値安定を目指す。</p> <p>③漁協は、引き続き県と協力して定期的にあサリの貝毒検査を実施し、安全安心なアサリを安定供給することで魚価の維持、向上を図る。</p> <p><b>【Ⅲ 売り先・売り方を工夫する取組】</b></p>
--------------	--

	<p>①漁協は、引き続き蒲郡メヒカリの唐揚げを市内外のイベントなどで販売しつつ、これまでの実績を元に地域団体商標登録を申請する。</p> <p>②漁協は、考案した新しい深海魚料理を水産まつりや青空市をはじめとしたイベントで売り込むことで更なる深海魚の魚食普及に取り組む。</p> <p>③漁協は、地元料理店と協力して、アカザエビについて、これまでの取組や料理のPRなどをネットや新聞、テレビなどを積極的に活用し、名古屋圏を中心に市外の人に売り込んでいく。</p> <p>④漁協女性部は、年に2回地元の公民館や水産物販売施設などで料理教室を開催し、沖合底びき網の深海魚始め地元で水揚げされた漁獲物を活用した料理を提供し、地元産魚介類の魚食普及を図る。</p> <p>⑤漁協は、ツメタガイについて、水産試験場、水産高校、食品会社等と協力して開発した新しい料理、加工品を水産まつり等のイベントで提供し、食用としての認知度の向上を図る。</p> <p>⑥漁協は、地元漁獲物の売り上げ向上を図るため、漁港敷地内に漁協の直売施設を設置することを検討する。</p> <p><b>【V 製氷・貯氷施設の整備に関する取組】</b></p> <p>漁協は、前年度に実施した設計にしたがい、製氷・貯氷施設の整備を行う。</p> <p>・これらの取組により、基準年の漁業収入に対し0.7%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>【IV 省燃油活動・省エネ機器導入】</b></p> <p>①漁業者は、引き続き船底塗装対策事業により船底清掃、船底塗装等を定期的に行い、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p> <p>②漁業者は、引き続き漁業近代化資金を活用し、燃費の悪い漁船から順次、燃油削減効果の高い省エネ機器を導入し、燃油コストの削減を図る。</p> <p>③漁業者は、引き続き減速運転による燃油使用量の削減やLED電灯の導入、漁業機器の定期的な整備による消費電力の削減など、自主的な省エネ対策を行う。</p> <p>④漁業者は、引き続き競争力強化機器等導入緊急対策事業を活用し、老朽化したエンジンから順次機関換装を行うことで、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これらの取組により、基準年に対し0.2%のコスト削減を目指す。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もうかる漁業創設支援事業（Ⅱ①②）</li> <li>・競争力強化機器等導入緊急対策事業（Ⅳ④）</li> <li>・漁業近代化資金（Ⅳ②）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（Ⅰ③④）</li> <li>・水産業競争力強化緊急施設整備事業（Ⅲ⑥）</li> <li>・水産業強化支援事業（漁港機能高度化目標）（Ⅲ⑥）</li> <li>・水産まつり委託料（蒲郡市）（Ⅲ①）</li> <li>・蒲郡メヒカリブランド化推進事業委託料（蒲郡市）（Ⅲ①）</li> <li>・船底塗装推進事業補助金（蒲郡市）（Ⅳ①）</li> <li>・水産物地産地消事業委託料（蒲郡市）（Ⅲ③）</li> <li>・水産業強化支援事業（Ⅴ）</li> </ul>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>【Ⅰ 生産量を増やす取組】</b></p> <p>①小型機船底びき網、機船船びき網漁業者は、資源管理計画に基づき、引き続き定期休漁や操業期間制限を実施し、マアナゴ、タイ類、カレイ類、シャコ、エビ類、イカ類、イワシ類、イカナゴ等の資源の維持、増大に努める。また、計画期間の終了（西浦地区の小型機船底びき網のうち渥美外海板びき網及び改良備前網を除く）に伴い、資源管理協議会で行う評価・検証の結果をもとに、必要に応じて取組内容を見直し、新たな計画に基づく資源管理を実施する。</p> <p>②漁協は、愛知県、蒲郡市と協力して、三河湾や地先漁場において、引き続きクルマエビ、ガザミ、ナマコの種苗放流を行い、資源の維持増大を図る。</p> <p>③協議会は、アマモ場について引き続き既造成場所の保護・維持するとともに、ゾステラマット及び新たな手法を活用した造成を、水産試験場と協力してさらなる造成適地を調査し、より効率的に実施することによって更にカレイ類、タイ類、スズキ、イカ類、ガザミ等の水産資源の増大や漁場環境の改善を目指す。</p> <p>④協議会は、引き続きアサリの食害生物であるツメタガイ等の駆除活動やカモの食害防除対策を行い、資源の保護を図る。</p> <p>⑤漁協は、引き続きアサリ漁場の耕うん等を、効果的な実施時期、場所で行い、より一層の稚貝の着底促進、生育環境の改善を図り、資源の増大、漁獲量の安定を目指す。</p> <p>⑥漁協は、引き続き豊川河口で発生するアサリ稚貝を採捕し、地区内の漁場に放流することにより、資源の増大を目指す。</p> <p><b>【Ⅱ 付加価値向上を図る取組】</b></p> <p>①沖合底びき網漁船で実施した「もうかる漁業創設支援事業」の海水殺菌装置、シルクアイス装置を導入した高鮮度漁獲物（メヒカリ、ニギス、アカムツ、アカザエビ等）の安定供給に関する実証事業の成果を参考に、実証船以外の漁船への導入について検討する。</p> <p>②実証事業を実施した沖合底びき網漁業者は、海水冷却装置を活用した活アカザエビの周年かつ安定供給化とともに供給量の増加を図り、引き続き地元高級料理店とタイアップすることで魚価の高値安定及び水揚げ金額の増加を目指す。</p>
---------------------	--



	<p>③漁協は、引き続き県と協力して定期的にあサリの貝毒検査を実施し、安全安心なアサリを安定供給することで魚価の維持、向上を図る。</p> <p><b>【Ⅲ 売り先・売り方を工夫する取組】</b></p> <p>①漁協は、引き続き蒲郡メヒカリの唐揚げを市内外のイベントなどで販売しつつ、「蒲郡メヒカリ」の名前で地域団体商標を登録できた場合にあっては、それを活かしたPR活動を展開し一層の販路の拡大を目指す。</p> <p>②漁協は、深海魚について、新たに開発した新メニューを水産まつりや青空市をはじめとしたイベントで売り込むとともに、市内の料理店で広く提供することで魚食普及の取組を強化する。</p> <p>③漁協は、地元料理店と協力して、アカザエビについて、市内の高級料理店で様々な料理に利用されることで、更なるPR活動に努め、「蒲郡の高級料理といえばアカザエビ」と呼ばれるように推奨していく。</p> <p>④漁協女性部は、年に2回地元の公民館や水産物販売施設などで料理教室を開催し、沖合底びき網の深海魚始め地元で水揚げされた漁獲物を活用した料理を提供し、地元産魚介類の魚食普及を図る。</p> <p>⑤漁協は、ツメタガイについて、水産試験場、水産高校、食品会社等と協力して開発した新しい料理、加工品を引き続き水産まつり等のイベントで提供し、食用としての認知度の向上させることで、需要拡大を図る。</p> <p>⑥漁協は、漁港敷地内に設置する直売施設の設計を進める。</p> <p><b>【Ⅴ 製氷・貯氷施設の整備に関する取組】</b></p> <p>新たな製氷・貯氷施設を運用し、地域の漁業者に対して安定的に操業に必要な給氷を行い、漁業者の操業機会の確保を行う。</p> <p>また、漁業者は安定的に供給される氷を使用することにより、漁獲物の鮮度保持・向上及び魚価単価の向上を図る。</p> <p>・これらの取組により、基準年の漁業収入に対し0.7%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>【Ⅳ 省燃油活動・省エネ機器導入】</b></p> <p>①漁業者は、引き続き船底塗装対策事業により船底清掃、船底塗装等を定期的に行い、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p>

	<p>②漁業者は、引き続き漁業近代化資金を活用し、燃費の悪い漁船から順次、燃油削減効果の高い省エネ機器を導入し、燃油コストの削減を図る。</p> <p>③漁業者は、引き続き減速運転による燃油使用量の削減やLED電灯の導入、漁業機器の定期的な整備による消費電力の削減など、自主的な省エネ対策を行う。</p> <p>④漁業者は、引き続き競争力強化機器等導入緊急対策事業を活用し、老朽化したエンジンから順次機関換装を行うことで、燃費効率を高め、燃油コストの削減を図る。</p> <p>・これらの取組により、基準年に対し0.2%のコスト削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化機器等導入緊急対策事業（Ⅳ④）</li> <li>・漁業近代化資金（Ⅳ②）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（Ⅰ③）</li> <li>・水産業競争力強化緊急施設整備事業（Ⅲ⑤）</li> <li>・水産業強化支援事業（漁港機能高度化目標）（Ⅲ⑥）</li> <li>・水産まつり委託料（蒲安市）（Ⅲ①③）</li> <li>・蒲安メヒカリブランド化推進事業委託料（蒲安市）（Ⅲ①）</li> <li>・船底塗装推進事業補助金（蒲安市）（Ⅳ①）</li> <li>・水産物地産地消事業委託料（蒲安市）（Ⅲ④）</li> <li>・水産業強化支援事業（Ⅴ）</li> </ul>

(4) 関係機関との連携

取組の効果が十分発現できるよう、行政機関（愛知県農林水産部水産課、愛知県東三河農林水産事務所水産課、蒲郡市）、研究機関（愛知県水産試験場）、愛知県漁業協同組合連合会、愛知県信用漁業協同組合連合会などと連携を図り、取組を着実に実施する。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上	基準年	過去5年間の5中3平均：漁業所得	千円
10%以上	目標年	平成33年度	：漁業所得 千円

※1 経営体ごとの平均漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

平成23年から平成27年を対象に、各地区（西浦、形原、竹島）の代表的な漁業者について5年分の確定申告資料の漁業収入及び漁業経費を基に地区別・漁業種類別の平均所得率を求め、漁協が把握している地区別・漁業種類別漁獲高（漁業収入）、平均所得率、経営体数から、各年の地区別・漁業種類別の平均漁業所得を算出し、これを加重平均して得られた各年の漁協全体の平均漁業所得を5中3平均した数値を基準年の漁業所得とした。

目標年の漁業所得については、「蒲郡メヒカリ」のPR活動や地産地消による地元飲食店、学校給食への普及活動、「もうかる漁業創設支援事業」での実証の成果をもとにした深海魚の付加価値向上の取組、小型機船底びき網や機船船びき網の資源管理計画の実行、種苗放流やアマモ場造成による資源の維持増大、耕うん等によるアサリ漁場の改良、豊川河口で発生する稚貝の移植放流、食害生物の駆除等を行い、資源の維持増大、製氷施設の整備による操業機会の確保及び漁獲物の鮮度保持・向上を図ることで、毎年基準年と比べて0.7%の売り上げ増加を見込み、5ヵ年で約622千円の収入増を図る。

また、競争力強化機器等導入緊急対策事業による省エネ機器の導入や、市の補助事業である船底塗装対策事業の活用、機関換装による省エネエンジンの導入により、毎年基準年と比べて0.2%のコスト削減に取り組むことで、5ヵ年で約105千円の経費削減を見込む。

以上により、基準年の10パーセント以上の所得向上を目指す。

## 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
競争力強化機器等導入緊急対策事業	省エネエンジン等の導入により、燃油経費の削減
漁業近代化資金	漁業者等の資本装備の高度化及び経営の近代化を推進するために必要な資金を長期かつ低利に融通
水産多面的機能発揮対策事業	干潟や藻場等の地域資源の機能維持・回復を図る取り組みに対して支援
水産業競争力強化緊急施設整備事業	競争力強化のための共同利用施設を新設
水産業強化支援事業（漁港機能高度化目標）	競争力強化のための共同利用施設を新設
水産まつり委託料（蒲郡市）	水産業の振興と魚食普及を目的に水産まつりを実施
蒲郡メヒカリブランド化推進事業委託料（蒲郡市）	蒲郡メヒカリの地域ブランド化を確立するため、周辺地域におけるイベント等において広報、PR活動を実施
船底塗装推進事業補助金（蒲郡市）	経営改善のため、省エネ対策の推進、燃油削減を目的とした船底塗装の取組に対して助成
水産物地産地消事業委託料（蒲郡市）	地元の旬の魚の周知と魚料理の普及を図るため、小学生の親子及び一般市民を対象とした魚料理教室を実施
水産業強化支援事業	安定的な給氷による操業機会の確保、漁獲物の鮮度保持・向上のために製氷施設を整備